



これから秋を迎える五稜会病院の正面像です。空が秋の気配を漂わせています。伏古川に抱かれた落ち着いた環境にある病院です。

平成29年の五稜会病院と社会情勢

今年も、あと数ヶ月となってしまいました。2月を過ぎると、いつもあつという間に1年が過ぎるような気がします。これから秋本番、過ごしやすい季節になります。秋は、食欲の秋、読書の秋と色々な過ごし方が出来ます。札幌では大通りでオータムフェストも開催されます。時間を見つけて美味しい物を頬ばるのも良いでしょう。

秋は学会のシーズンでもあります。当院では、研究活動を積極的に行っており、その成果は学会や研究会で発表しています。研究活動は、最終的には医療技術の向上、そして患者さんへの治療レベルの引き上げに繋がります。

平成29年10月には、第22回日本ストレスケア病棟研究会が当院で開催されます。昨今、ストレス関連疾患の患者さんが非常に増えています。当院での治療内容の実践報告をして、全国の参加者の方との意見交換を通じて、さらなる治療内容の向上を図りたいと考えております。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

秋は学会シーズンです。私たちは最新の医療を提供出来るように、日々研鑽し努力しております。
平成29年10月21日(土)に
第22回日本ストレスケア病棟研究会が、当院で開催されます。全国から120名の参加者が予定され、当院のストレスケア・思春期病棟の実践報告をさせていただきます。

平成29年8月4日

○小野百合内科院内勉強会
「五稜会病院における思春期患者への対応」 中島公博

平成29年8月21日

○札幌マタニティ・ウイメンズ・ヘルス・外院内研修
「妊産婦のメンタルヘルス」 松岡みずほ

平成29年9月9日

★うつ病リワーク研究会 医療従事者向け研修会基礎コース
「標準化リワークプログラムの作成のポイント」 清水陽平

平成29年9月20日

★第81回日本心理学会
「WAIS-III全検査IQと推定IQに生じる差の予測」 春名大輔

平成29年9月29日

★第43回日本認知・行動療法学会
「対処法のバリエーションからみた、ストレス反応の緩和効果の検討」 中村亨

平成29年10月12日

★第6回日本精神科医学会学術大会
「認知行動療法に基づく感情調節のための心理教育プログラムの検討」 広瀬慎一

「精神遅滞患者の暴力に至る要因と今後の課題」 吉田貴史

「主体性に焦点を当てた作業療法プログラムの展開～事例を通しての一考察～」 羽生恵美

平成29年11月16日

★第25回日本精神障害者リハビリテーション学会
「デパートにおけるリハビリ志向の集団心理教育がもたらすインパクトについて」 今井佐千子

平成29年12月8日

★第25回日本産業ストレス学会
「医療業務に従事する労働者のストレス反応の予測モデル：ストレスチェックのデータを用いた縦断的研究」 戸田愛貴子

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

最近の精神科医療政策のご紹介

中島公博、日本精神科病院協会(日精協)理事再就任

当院理事長の中島公博は、北海道地区の推薦ならびに平成29年6月の日精協代議員会、総会により公益社団法人日本精神科病院協会の理事に再就任することになりました。今回で3期目になり、平成29年度も引き続き政策委員会の担当となります。精神科医療を取り巻く環境は激変しており、日々の医療施策の情報収集、整理、理解を深めることは大変な作業ですが、理事として与えられた仕事を全うし、最新の精神科医療施策に関与していきます。結果として、治療内容、患者さんサービス向上に繋げていきたいと思っております。

平成30年度4月からの北海道医療計画策定

精神疾患は、平成25年から、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病とともに5疾病に数えられ、救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療の5事業とあわせて、地域医療計画の重要項目となっています。

平成26年6月、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律が成立し、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築することを通じ、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するために医療法が改正され、地域医療構想が導入されました。そして、地域医療構想の達成に向けた取組を進めていくため、平成30年4月からの北海道医療計画策定の作業が、現在北海道で進められています。

趣旨

- 都道府県が、地域の実情に応じて、医療提供体制の確保を図るために策定。
- 医療提供の量(病床数)を管理するとともに、質の高い医療を受けられる体制(医療連携・医療安全)を整備。
- 医療機能の分化・連携を推進することにより、急性期から回復期、在宅医療に至るまで、地域全体で切れ目なく必要な医療が提供される「地域完結型医療」を推進。

今回の計画策定のポイント

- 計画年数は「6年」とし、必要がある場合は変更。なお、在宅医療等については、3年ごとに調査、分析、評価等を行い、必要がある場合は変更。
- 急性期から回復期、慢性期までを含めた一体的な医療提供体制の構築。
- 疾病・事業横断的な医療提供体制の構築。
- 5疾病・5事業及び在宅医療に係る指標見直し等による政策循環の仕組みの強化。
- 介護保険事業(支援)計画等の他計画との整合性の確保。

当院は患者さん本位の医療を提供しようと

考えております。

お気づきの点はお相談下さい。

治験のご協力をお願い

現在、当院では「統合失調症」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬(薬を創りだす)は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。今後、AD/HDの治験も予定しています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

また、18歳までの年齢で、統合失調症と診断されている患者さんの治験を実施しています。未成年の場合、親御さんの同意が必要です。

AD/HD(注意欠陥多動性障害)

まもなく、治験が開始されます。興味のある方は主治医にお尋ね下さい。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床
急性期病棟	48床
ストレスケア・思春期病棟	48床
療養病棟A	49床
療養病棟B	48床

従業員数	約200名
医師数	常勤 6名 非常勤 8名
看護師	84名
薬剤師	2.5名
臨床検査技師	2名 非常勤 2名
臨床心理士	8名 非常勤 4名
作業療法士	9名 音楽療法士 1名
精神保健福祉士	10名

五稜会病院沿革

開設	昭和47年
医療法人開設	平成2年

編集後記

今年は7月が高温で8月の猛暑が予想されましたが、意外と涼しい夏だったような気がします。これから秋本番。すがすがしい季節になります。食欲の秋、読書の秋、皆さんはどんな秋が好きですか。オータムフェストも楽しそうです。

発行：平成29年8月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 清水優子・羽生恵美

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail: GMC@goryokai.com

英国メリデン版訪問家族支援

当院では、英国メリデン版訪問家族支援を提供しております。これは、当事者本人だけではなく家族も対象とした訪問による支援です。新しい支援方法なので、知らない方も多いと思いますので紹介いたします。

○英国メリデン版訪問家族支援とは？

本人と家族をともに支援する方法で、1970～80年代に欧米諸国で普及した行動療法を基盤とした家族療法です。英国の都市であるバーミンガム市内のメリデン地区にある国営医療サービス事業（NHS: National Health Service）で開発されました。現地ではファミリーワークと呼ばれており、再発予防に効果が示されています。

○日本での実践状況は？

2016年から日本で実践を開始しており、現在は一般社団法人メリデン・ジャパン・ファミリーワークプロジェクトが日本での普及を目指して活動しています。支援者は国内ではまだ少なく、全国で実践しているのは本プロジェクトメンバーで英国での研修を修了した5名が拠点としている札幌・帯広・仙台・宮城に限られています。札幌では当院のみとなっています。来年3月には日本で初めての支援者養成の研修会を開催し、支援者の養成に努めていく予定です。

○支援の主な内容

エンゲージメントとアセスメント
 ☆ 個々の家族成員/家族のコミュニケーションと問題解決についてアセスメント
 ☆ 家族との協働作業で行う

症状やその影響についての情報共有
 ☆ 「教育」ではなく「情報共有」
 ☆ 「再発の危険サインとその対処方法」を本人・家族・支援者で共有

コミュニケーション・スキル・トレーニング
 ☆ 傾聴／うれしい感情の表現／肯定的な要求／不快な感情の表現

家族による問題解決
 ☆ 家族とのミーティングをもち、問題解決の練習、そして支援者なしでの家族ミーティングのやり方を確立

この内容に沿って、支援者が定期的に自宅に訪問し、セッションを皆さんが実際に生活している場で行います。頻度は週に1度、月に1度など、相談の上決定します。このセッションは計15回程度ですが、家族状況によって異なります。この支援で大切にしている事は、本人・家族・支援者の関係性で、支援する側ー支援される側という関係ではなく三者が協力するという関係性です。これを「ケアの三角形」と呼んでいます。



○料金

訪問看護指導料としての請求となります。3割負担で支援者1名訪問時1回1,730円ですが、セッションの内容により支援者2名で伺う場合があります。その場合の料金は異なってきます。
 (看護部長/ファミリーワーク・トレーナー 吉野)

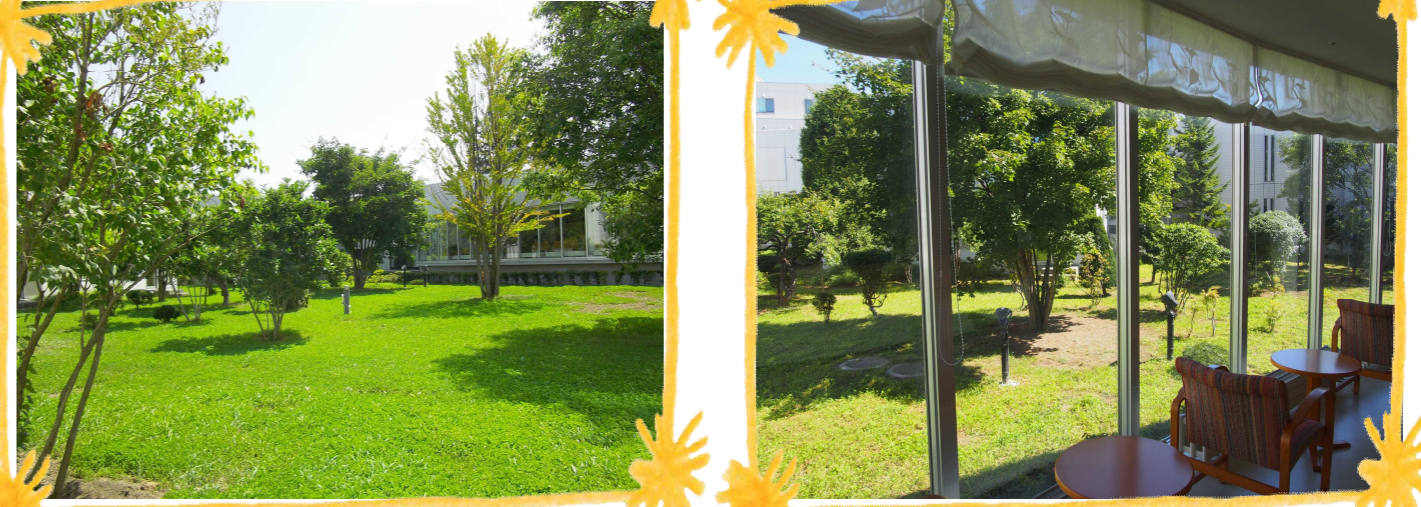
ロビーコンサート

オーボエ奏者の鈴木景子さんに2ヶ月に1回外来ロビーにて演奏をしていただいています。オーボエの魅力、選曲のこだわりについて鈴木景子さんにお聞きしました。「オーボエは、女性の声に1番近い管楽器と言われています。温かみのある音で、人の心に届くメロディーを奏でることが出来る楽器です。選曲については、聴き馴染みがありほっとできる曲・聴いた人が何かを感じることができる曲を選ぶように心がけています。」

ロビーコンサートは、偶数月の第2金曜日11:40頃外来ロビーにて行っています。自由に聞くことが出来ますので是非お越しください。
 (作業療法士:羽生)



こころ癒される中庭をめざして



当院の中庭は、前院長の意向で「癒し」をテーマに作られており、その想いは現在も引き継がれております。新築工事が終了し、荒れた庭を整備するため古木の伐採、木の移植、整地を行って参りました。6月にはクローバーの種まきを行いました。今後も、「こころ癒やされる中庭」をめざし手入れをしていきたいと思しますので、ご期待下さい。

(総務課長・森田)

病棟喫茶COCOのご紹介

当院療養病棟では、作業療法プログラムの一環として今年6月から患者さん・スタッフ共同で喫茶店を月に1回行っています。病棟内の憩いの場をコンセプトにメニューや店内の装飾、BGMなど話し合いながら進めています。スタッフの役割を担われている患者さんは接客業の経験がある方、これからカフェで働いてみたいと希望されている方、働きたいけどどんな感じなのかわからないから体験してみたいという方などそれぞれ目的を持ち取り組まれています。開店当日は病棟の患者さんや職員など多くの方が来店され、ゆったりと過ごされていました。7月にはテラス席を設け大変好評でした。来店された方々からは『コーヒーが美味しかった』『BGMが良かった』『またやって下さい』との声がありました。スタッフ役の患者さんからは『みんな喜んでくれて嬉しかった』『お世話になっているスタッフが来てくれて嬉しかった』『これなら続けられそう』と前向きな感想が多く聞かれました。今後も月1回の頻度で行っていく予定になっています。療養病棟作業療法では、患者さんが主体的に取り組める活動内容を大切に、患者さんと話し合いながらプログラムを実施しています。
 (作業療法士:羽生)

